

『一生懸命』幻の新座市議会報告第155弾!



2017年12月31日発行

③ よいお年を!

2017年が終わろうとしています。色々なことがあった年でした。ドナルド・トランプが米国大統領となり、危ういところでTPPは免れることができました。しかし、今度は日米FTAという新しい危険が迫っています。米韓FTAを見れば、その危険度が分かりますが、マスコミは芸能人や政治家のスキャンダルを追いかけ安倍内閣の危険な外交には無関心のようです。

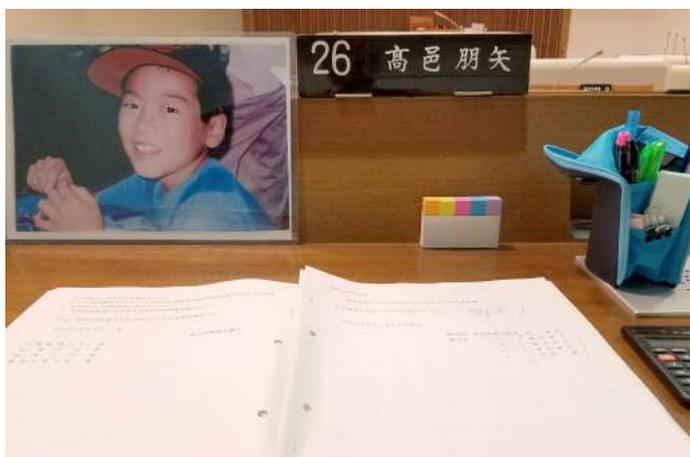
2017年、都議選では「こんな人達に」発言で自民党が大敗し、総選挙では「排除いたします」発言で希望の党が大敗しました。トップに立つ政治家達の本音が見えた瞬間に国民は反応したのです。

お隣の韓国では朴槿恵大統領が逮捕されました。しかし、同じようなことをしている日本の総理やそのお友達は捕まることもなく、国会に呼ばれることもなく、ただ籠池夫妻だけが冷暖房のない独居房の中に半年近くも閉じ込められています。出てこられては余程困るのでしょうか、非情とはこのことを言うのでしょうか。

12月議会で旧庁舎での議会は終わりになります。2004年から14年間戦ってきた場所が来年の3月議会から新庁舎の議場に移ります。写真の議席番号26番もこれで最後です。

新しい議場の机は書類や写真を立てかけるようにはなっていないので、こうして陵平の写真を飾りながら質問することも今回で最後になります。

今年も駅で沢山の方がこの「一生懸命」を手に入れました。そして、多くの方が応援してくださいました。そのことに感謝して…よいお年を!!



12月議会で久しぶりに陵平の指導死を取り上げました。12歳の頃の陵平の写真と陵平のお父さんが書いた本を手にしての質問になりました。

たかやんのプロフィール



1954年、港区青山生まれ。

新宿区立西戸山中学校卒。新宿百人町では有名な悪ガキだった。PTAのおばちゃん達からは「あの子とだけは遊んではいけません」と言われる程、嫌われていた。弱いもの虐めだけは

したことがないが、線路を横断したり、高いところに登ったり、危険な遊びが多く、毎日の遊びで運動神経を鍛えていた。中一までは1日5分しか机に向かえず、偏差値も40前後。1学期はバスケット部、2学期はバレー部、3学期はテニス部というふざけた中学生だった。中二で最高の先生、友達と出会って人生が180度変わる。テニスで新宿区のチャンピオンになり、偏差値も63まで急上昇。都立石神井、北海道大学を経て1977年、新座五中に赴任。

写真は五中の体育祭で応援団の演技を見つめているところ。98年退職し、「たかやん塾」を開設。小中高生とともに学び続けながら、2004年から市議会議員。「市民と語る会」に所属している。

たかやんの応援団 で 検索

たかやんの連絡先 自宅 042-456-8869 携帯 090-6497-5737
mail:takayanchan@jcom.home.ne.jp 〒352-0033 新座市石神3-19-32-106

③ 学校

12月議会では教育問題を多く取り上げました。新座の学校に限らず、日本中の学校が昔よりも生き辛くなってきている。僕はそう感じています。

中学生達はテストの度に異常とも言える「課題提出」に自分の時間を奪われています。新座の子ども達の学力は二極化していることが教育長の答弁でも明らかになっていますが、難関校を目指す子ども、基礎力をつけなければいけない子にも同じ課題を提出させる方法は誰が見ても賢明ではありません。もっと言えば、それをやらせる人が親であっても教師であっても「人にやらされる勉強」が身につくことはないし、「自分からやる勉強」に勝つことはないのです。今の子ども達は自分の勉強法を「選択」する権利を失いつつあります。しかも、学校からの課題は「書く」ことに偏っています。書くことは必要ですが、「読む」ことや声を出して「暗誦」することに比べて、「繰り返す」ことが出来ません。大切なことは脳に入れたものを出せるようにすることで、時間を使って「書く」ことではありません。

テストの結果だけで評価するのならいいのですが「課題提出」の内容が気に入られなかったり、期限に間に合わないと5が4になったり、3になったりするのでは、内申を気にする子ども達は教師の言いなりになるしかありません。進学塾で膨大な量のテキストをやる子も、夜遅くまでスポーツでクタクタな子にも基礎学力を身につけなければいけない子にも、容赦なく「課題提出」は突きつけられています。

その結果、子ども達は「睡眠負債」に陥り、十分な力を発揮できなくなっている。そして、その提出物を評価する教師も多忙化に拍車がかかり、疲れ切っている。それが新座の中学校の現状です。

新座では家庭学習ノートというノートが流行しています。学力向上の為に毎日家庭でやった勉強をノートに書いて提出させるという仕組みです。

学力テスト1位の秋田県を真似たのでしょうか、表面だけを見て、中身を見ていないと思います。

内申が心配な子ども達はこのノートを書くために眠い目を擦って更なる無理をしています。そして、子ども達も担任も疲れて「睡眠負債」に陥る……。

子どもの学力を本気で上げようと思ったら、こんなことは出来ない筈なのですが……。

③ 中野信子と友田明美



素晴らしい二人の女性脳科学者の本に出会いました。最初に読んだのは中野信子の「ヒトはいじめをやめられない」という、かなりショッキングなタイトルの本です。やめられない！というタイトルなのですが、子どものいじめと大人のいじめの回避策を脳科学から考える……という内容になっています。

最近の脳科学では「社会的排除は、人間という生物種が、生存率を高めるために、進化の過程で身につけた機能なのではないか」ということが分かっていたそうです。どんな集団においても、排除行動や制裁行動がなくなるのは、そこに何かしらの必要性や快感があるからだ。と中野信子は言います。特に子ども時代には「誰かをいじめると楽しい」という脳内ホルモンが出てしまう。では、どうすればいいのか……そのヒントがこの本に書いてあります。大人にも子ども達にもお勧めの本です。

次に読んだ本は友田明美の「子どもの脳を傷つける親たち」という、これまた凄い本でした。

マルトリートメント(不適切な養育)が子ども達の脳を物理的に傷つけ、学習意欲の低下やうつ、統合失調症などの病気を引き起こすことが明らかになったと言うのです。

体罰は勿論、「子どもの人格を否定するような言葉は確実に子ども達の脳を傷つけている。」彼女はそう警告しています。勿論、これは親だけに限る話ではなく、学校の教師にも当てはまります。

親や教師が子ども達の人格を否定するような言葉を吐き続ければ、子ども達の脳は確実に変形してしまうのです。親は勿論、学校の先生達にも読んで欲しい本です。